

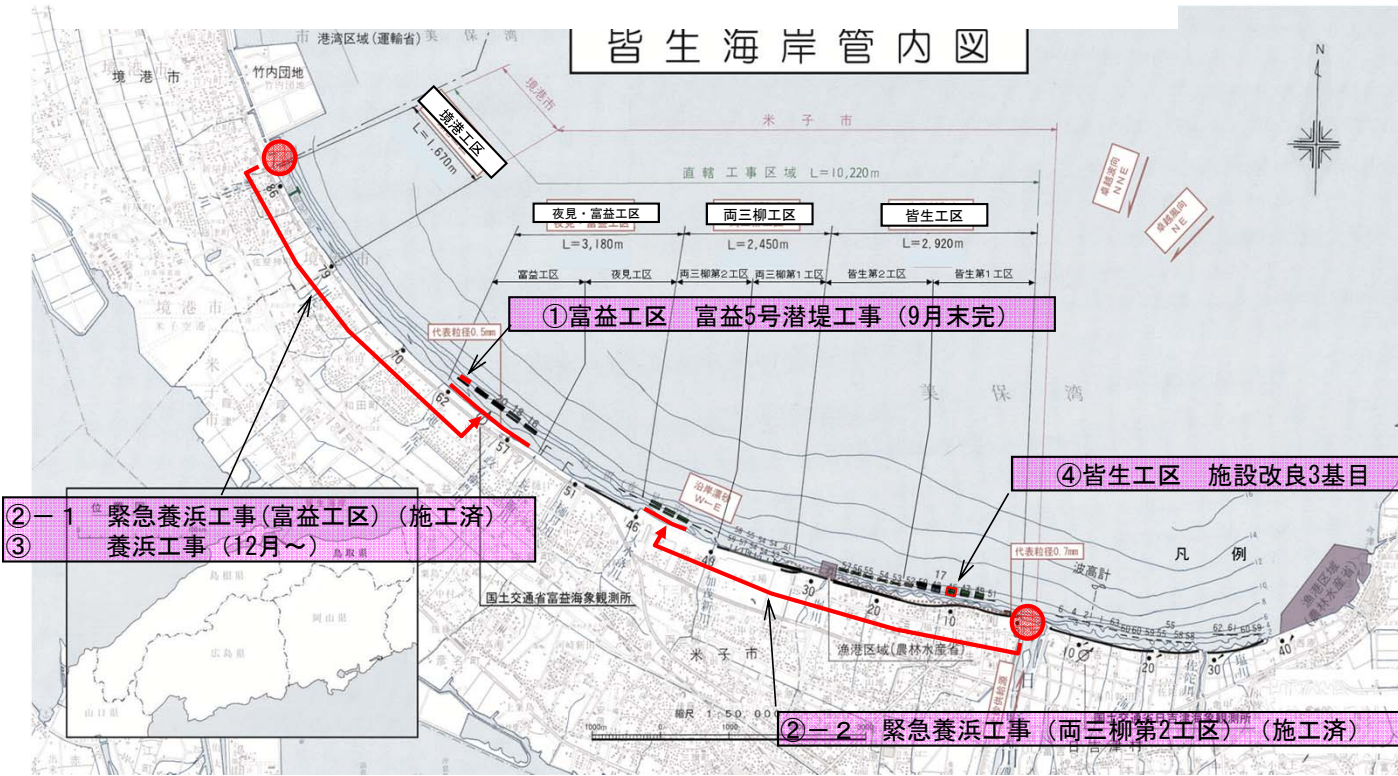
平成25年度 鳥取県西部海岸管理協議会  
説明資料

平成25年10月17日

国土交通省 日野川河川事務所

# 海岸保全事業の進捗状況について

## 海岸保全事業の進捗状況について

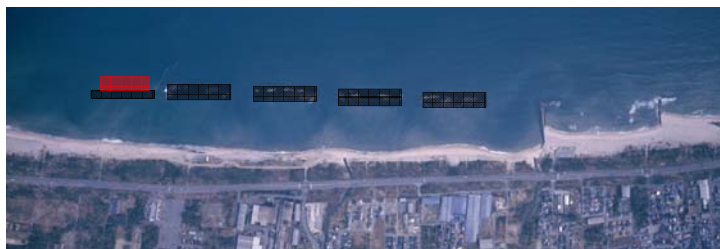


主要な工種	単位	全体計画(H20)	完了	残	備考
離岸堤	基	15	15	0	
人工リーフ	基	8	5	3	暫定完成形含
施設改良	基	5	2	3	
突堤	基	42	42	0	
護岸	m	2,322	2,322	0	
緩傾斜護岸	m	720	720	0	
サンドリサイクル	式	1	1	1	

## 本年度工事について

- ①富益工区人工リーフ5基目(9月末暫定完)
- ②緊急養浜工事(施工済み)
  - 1. 境港工区 → 富益工区 12,000m<sup>3</sup>
  - 2. 日野川河口 → 富益工区 3,000 m<sup>3</sup>
  - 3. 日野川河口 → 両三柳工区 14,000m<sup>3</sup>
- ③富益工区養浜工事(12月以降)
  - 境港工区 → 富益工区 13,000m<sup>3</sup>(予定)
- ④皆生工区 施設改良3基目(予定)

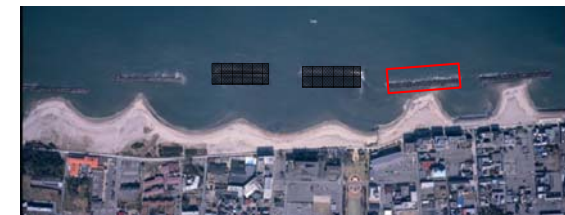
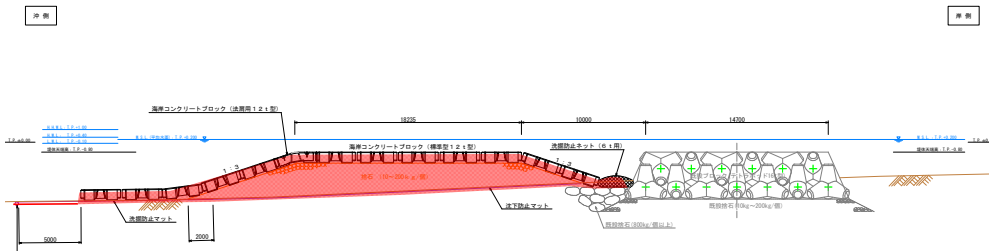
①富益工区人工リーフ5基目(9月末暫定完)



②緊急養浜工事(施工済み)  
③富益工区養浜工事(12月以降)

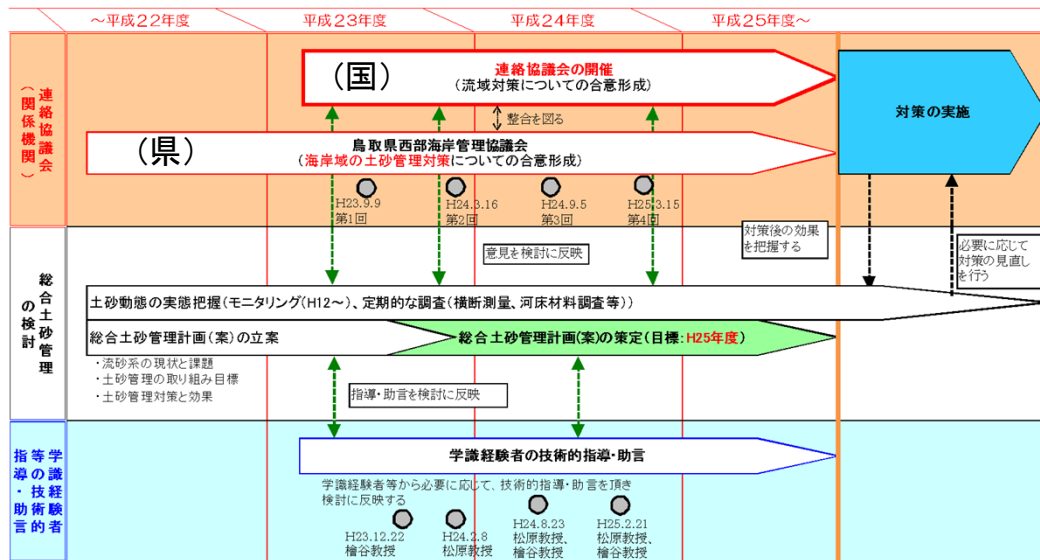


④皆生工区 施設改良3基目(予定)



# 日野川流砂系における総合土砂管理計画策定に向けて

## (1) 総合土砂管理計画策定工程



### 学識経験者

所属	役職	氏名
鳥取大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻	教授	榎谷 治
鳥取大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻	教授	松原 雄平

## (2) 総合土砂管理対策案の一例(河道掘削)

- 樹林化した砂州の一部を掘削(攪乱)することで、砂州に堆積している土砂を海岸へ供給させる対策
- その効果を明らかにするため、H19年度に日野川6.2k右岸砂州で現地実験を行った。
- 砂州掘削後、H23.9洪水により砂州堆積土砂が流出するとともに、滞筋部の深掘れ解消等の治水上の効果も現れた。



## 総合土砂管理計画(案)

**河口域**

- 維持掘削+養浜  
洪水によりフラッシュされても、数か月で元に戻ることから、治水安全性の確保のため、維持掘削は必要である。  
また、河口部の土砂は海浜材料の中でも粗いため、養浜材料として通している。

**海岸域**

- サンドリサイクル、養浜
- 人工リーフ化(岩堤)
- 防砂突堤の整備(航路維持)、浚渫  
これまで行われていた上記対策について、海浜の優良・堆積状況を踏まえて継続的に実施する。

**河道域**

- 河道掘削(河床攪乱、樹木伐採)+置き土
- 堰の改築(河川整備計画で実施)  
樹林化した砂州に堆積している花崗岩質砂を流出させる。日野川6.2kの現地実験では、砂州の一部を掘削し攪乱が生じやすくなることで、洪水により砂州堆積土砂が流出しており、この掘削と置き土を合わせて海岸への供給土砂を増加させる。なお、樹林化対策にも寄与する。

**ダム域**

- ダム堆積土砂の維持浚渫+置き土  
貯水池の維持浚渫で発生した土砂を河道又は海岸へ置き土する。

**砂防域**

- 既設砂防堰堤のスリット化
- 透過型砂防堰堤の整備  
不透過型砂防堰堤による土砂の捕捉が顕著に生じている堰堤を対象として、スリット化を実施する(養浜優良の助長や堰堤の構造に留意して対象堰堤を抽出)。  
新規の砂防堰堤整備に関しては、可能な限り透過型砂防堰堤とする(急傾斜地除く)。  
スリット砂防堰堤では、スリット部が詰まり除石が必要となる場合があるが、その場合は下流河道に置き土し、土砂の有効利用を図る(粒径の大きな石は除く)。

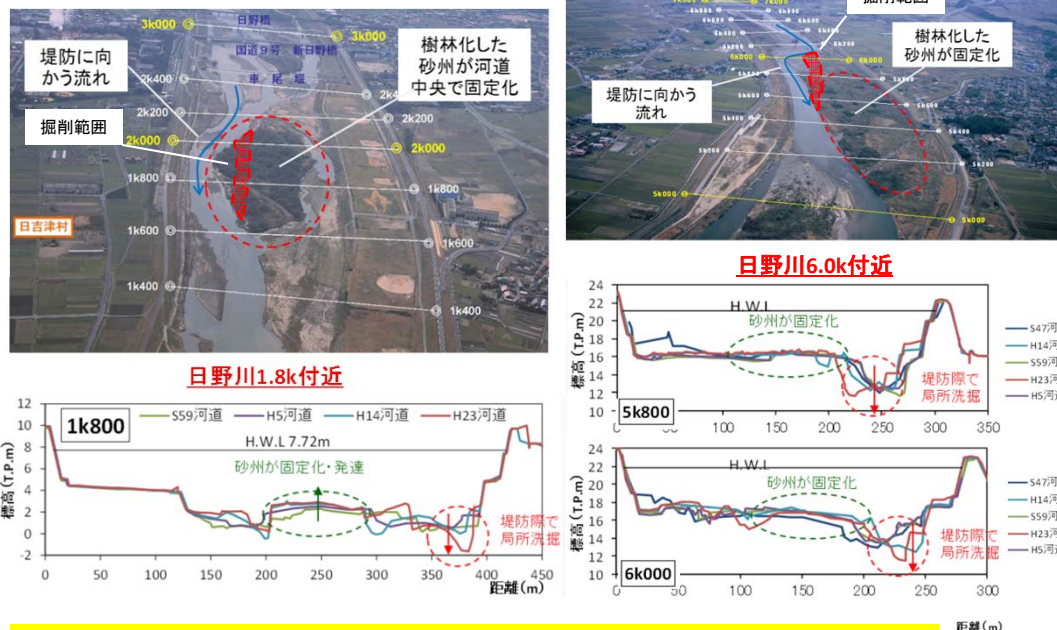
日野川6.2kの現地実験

H23.8.1(洪水前)

H23.9.10(洪水後)

置いた土砂が流出

## (3) 河道掘削実施予定候補地



○H25年11月開催予定の第5回総合土砂管理連絡協議会で意見を伺った後、今年度、総合土砂管理計画を策定予定